

長崎大学
核兵器廃絶研究センター一年報
2019

Research Center for Nuclear Weapons Abolition, Nagasaki University
(RECNA)

Annual Report 2019

長崎大学

核兵器廃絶研究センター一年報 2019

目次

はじめに

- ・ 混迷の中での、核廃絶への持続的挑戦 [1](#)

RECNA 活動報告 (2019年4月1日～2020年3月31日) [2](#)

教員活動報告

- ・ 吉田 文彦 センター長・教授 [9](#)
- ・ 鈴木 達治郎 副センター長・教授 [12](#)
- ・ 広瀬 訓 副センター長・教授 [16](#)
- ・ 中村 桂子 准教授 [20](#)

出版物 (リンク集) [23](#)

- ・ J-PAND (Journal for Peace and Nuclear Disarmament)
- ・ RECNA ニュースレター
- ・ RECNA Newsletter
- ・ RECNA ポリシーペーパー
- ・ 政策提言書
- ・ RECNA 叢書

活動報告 (リンク集) [23](#)

- ・ 2019 年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」(全6回)
- ・ 日韓共同ワークショップ「朝鮮半島の平和から北東アジア非核化へ」
- ・ 特別市民セミナー
- ・ RECNA 長崎被爆・戦後史研究会
- ・ 運営委員会次第

教育 (リンク集) [23](#)

- ・ 大学院核軍縮・不拡散科目群
- ・ 全学モジュール「核兵器のない世界を目指して」

ウェブサイト (リンク集) [24](#)

- ・ 市民データベース
- ・ 世界の核弾頭データ
- ・ 世界の核物質データ
- ・ レクナのみ

ナガサキ・ユース代表団 (リンク集)

[24](#)

- ・募集概要
- ・メンバー紹介
- ・厳選ブログ集
- ・活動報告
- ・活動紹介レポート

報道記事

[25](#)

あとがき

[30](#)

<はじめに>

混迷の中での、核廃絶への持続的挑戦

吉田文彦 (RECNA センター長)

2019年4月から、長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) のセンター長に就きました。2012年4月に RECNA が設立されてから、センター長は私で数えて3代目。これまでの8年間で RECNA は、「長崎を最後の被爆地に」との強い想いを背に受けながら、世界にも例を見ない核兵器廃絶に焦点をあてた研究・教育・社会貢献の拠点として成長してきました。

「温故知新」と言うにはまだ歴史が浅いかも知れませんが、そんな思いも込めて2019年3月に、RECNA の歴史や現在をわかりやすく説明した「RECNA パンフレット」を作成しました。印刷物として多くの方々に送付するとともに、RECNA のウェブサイトにも掲載しています¹。その冒頭には以下のような記載があります。

2009年のオバマ米大統領のプラハ演説は、世界中の人々に「核なき世界」へ向けた新しい時代の到来を感じさせました。特に被爆地長崎では、核兵器廃絶運動の中核を担ってきた被爆者の精神や、その願いを引き継ぐ組織の必要性が強く認識され、地域の問題意識に寄り添う市民のシンクタンク機能を果たす組織としてRECNAは2012年4月に誕生しました。その取り組みは、大きく(1) 調査研究・政策提言、(2) 教育・人材育成、(3) 市民社会への情報発信の3つにわかれ、核兵器に依存しない安全保障の実現に向けて、日本政府や国際社会に具体的な政策提言を示すための研究を進めるとともに、次世代を担う若手の人材育成や、国内・外資料の整理、分析、情報発信にも力を入れています。

残念ながら、2019年度は核軍縮・不拡散が混迷の度合いを深める1年間となりました。それでも RECNA は、上記のような基本姿勢を念頭に置きながら、2019年度もさまざまな研究・教育・社会貢献活動を重ね続けました。以下はそのご報告です。混迷の時期だからこそ、核廃絶に向けて持続的に活動する RECNA の存在、役割が益々、重みを増している。この1年を振り返って、そんな思いを強めております。

¹ https://static.nagasaki-ebooks.jp/actibook_data/z24_20030100069_recna/HTML5/pc.html

<RECNA 活動報告>

RECNA 活動報告（2019年4月1日～2020年3月31日）[↑](#)

§1 活動内容の報告

概要：

2019年度は核軍縮・不拡散が混迷の度合いを深める1年となった。2018年に大きく前進した朝鮮半島非核化に向けた動きは、米朝・南北間の交渉が前向きな軌道に乗らない状態が続いた。米国とイランの間の武力行使もあり、イラン核合意の維持が一段と困難な事態となった。米ソ間で1987年に合意された中距離核戦力（INF）全廃条約が米国の離脱宣言をきっかけに失効した。

RECNAでは、これらの動きに対して7月に「レクナ・ポリシーペーパーNo. 8 迷路に入った核軍縮：リスク削減に向けて」を刊行した²。北東アジアに関しては、韓国のシンクタンク・世宗研究所と共催で6月に日韓共同ワークショップ「朝鮮半島の平和から北東アジア非核化へ」をソナム（韓国）で開催した³。ここでの議論をもとに、厳しい現状を踏まえながら、政策提言書「朝鮮半島の平和から北東アジア非核兵器地帯へ」を刊行した⁴。同ワークショップ開催、並びに政策提言は、「北東アジアの平和と安全保障に関する専門家パネル」（PSNA）の協力を得て実現したものだ。PSNAはメインの会合を開かず、共同議長によるインターネット国際会議を随時開催した。その会議に基づき、今年度は計7本のワーキングペーパーを発表した。

研究面では、科研費「グローバルな核リスク極小化に向けて：新たな理論構築と実践的政策提言」（吉田文彦教授主査）は2年目にあたり、研究を本格化させた。2017年度発足の「長崎被爆・戦後史研究会」は最終年にあたり、研究を総括するシンポジウムを2020年2月に開催した。今年度から「軍縮教育」をRECNAの研究の柱の一つに加え、国際基督教大学（ICU）との共同研究も始動させた。

発信・出版では、英文の国際学術誌「Journal for Peace and Nuclear Disarmament」（J-PAND）を引き続き重視している⁵。順調に発表論文数を伸ばし、2019年7月に第2巻第1号、同12月に第2巻第2号を発刊した。RECNA叢書5として、「核兵器のある世界とこれからの考えるガイドブック」（中村桂子著、法律文化社、174頁）を3月に刊行する契約をした（4月に刊行された）⁶。

教育面では、来年度から開講される多文化社会学研究科博士後期課程の核兵器廃絶・平和

² <http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39356/1/REC-PP-08.pdf>

³ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/asia/jrj-workshop-20190522>

⁴ <http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39591/1/RECNA-PProp-2019-J.pdf>

⁵ <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/j-pand/>

⁶ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/publication/rechnaseries>

学系を主に RECNA が担当する。同系に 2 名が入学予定である。博士前期（修士）課程の核軍縮・不拡散科目群では 2 名が学位取得のうえ、2020 年 3 月に修了した。同科目群には同年 4 月にも 1 名入学予定である⁷。学部では全学モジュールに貢献した。

長崎県、長崎市と連携した核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU 協議会、調会長）の事業では、ナガサキ・ユース代表団 7 期生を 2019 年 5 月の NPT 再検討会議準備委員会に派遣した。核兵器廃絶市民講座は年 6 回開催し、そのうち 1 回は佐世保で開いた⁸。核兵器廃絶地球市民長崎集会に関しては、2020 年 2 月 23 日のパネルディスカッションに RECNA 教授陣が全面的に協力した。

以下に、センター規則第 3 条に規定する業務分類に従って標記期間の活動を報告する。

(1) 調査・研究

●韓国のシンクタンク・世宗研究所と共催で 6 月 1 日～2 日に日韓共同ワークショップ「朝鮮半島の平和から北東アジア非核化へ」をソナム（韓国）で開催した。ここでの議論をもとに政策提言書「朝鮮半島の平和から北東アジア非核兵器地帯へ」を刊行した。また、「北東アジアの平和と安全保障に関する専門家パネル」（PSNA）はメインの会合を開催せず、共同議長によるインターネット国際会議を定期的で開催した。その会議に基づき、世界でも有数の専門家にワーキングペーパーを依頼し、発行した。昨年度は 5 本、今年度も 2 月末までに 7 本のワーキングペーパーを発表した。論文はすべて、後述する学術誌「Journal for Peace and Nuclear Disarmament (J-PAND)」(『平和と核軍縮』)に掲載される予定である。

●昨年度より開始した科研費「グローバルな核リスク極小化に向けて：新たな理論構築と実践的政策提言」（吉田文彦教授主査）については、9 月 7～8 日に東京にて全体会合を開催。研究の進捗状況を確認するとともに、今後の研究活動の方向性や出版計画について議論を行った。その一環として、「先端技術と核リスク」研究グループは戸田記念国際平和研究所や明治大学、日本バグウォッシュ会議等と協力して「安全保障と先端技術プラットフォーム」(Platform for Security and Emerging Technologies: PSET) を立ち上げ、12 月 15 日に設立シンポジウムを開催した。科研費プロジェクトは 2021 年 3 月末まで継続する。

(2) 連携・協力

●長崎市・長崎県と連携した PCU 協議会の継続事業として、2019 年度は市民講座「核兵器のない世界を目指して」を 6 回開催し、うち 1 回は長崎県の要望により、佐世保市で開催した。その他に 2 回の特別市民セミナーを開催した⁹。後述の「ナガサキ・ユース代表団」

⁷ 多文化社会学研究科博士後期課程の核兵器廃絶・平和学系に 2 名、博士前期（修士）課程の核軍縮・不拡散科目群に 1 名が入学した。

⁸ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu/lecture31>

⁹ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu/2019-2>

事業も7期生9名をニューヨークで開かれた2020年NPT再検討会議第3回準備委員会に派遣し、帰国後報告会の開催、報告書の作成を行った¹⁰。ユース代表団の学生は各種の平和学習行事、特に非核宣言自治体協議会からの依頼で山形県、埼玉県、神奈川県、北海道などでも平和事業に参加した。さらに、長崎市とは長崎原爆死没者追悼祈念館が主催する Youth Conference in Nagasaki の開催にも協力した。

●韓国の大学・研究機関との連携：世宗研究所と連携したプロジェクトに力点を置いた。

●広島平和研等他大学との協力：広島市立大学広島平和研究所（HPI）とは、HPI、中国新聞とRECNAの3者共催国際シンポジウムを例年通り広島で、2019年12月14日に開催した。RECNAからは吉田センター長がコメンテーターとして参加した。今年度も主に学生交流を目的とした内外の大学からの訪問が続いた。5月17日にはモラヴィアン大学（米国）、2020年1月15日には大洋州島嶼国との青少年交流など、ユース代表団のみならず長崎の大学生たちと交流を深めた。

●国連及び関連国際機関との協力：中満泉・国連上級代表（軍縮担当）が8月9日に長崎を訪問した際に、RECNAスタッフと意見交換した。今年度も国連軍縮フェロシップへの協力（2019年9月30日、講演・会食：中村准教授、ナガサキ・ユース）を行うなど、国連軍縮局との協力関係は継続している。また、ニューヨークでのNPT準備委員会に合せて開催された平和首長会議主催のユース・フォーラムにおいてはナガサキ・ユースのメンバーによるプレゼンテーションを実施するなど、平和首長会議との連携も継続して進めた。

●RECNAは、長崎大学と包括連携協定を結んだICUと研究・教育両面での協力を2019年度から本格化させた。研究面では、「軍縮教育」（特に核軍縮・不拡散教育）での研究プロジェクトを立ち上げた。ICUとRECNAを中心とする共同研究チームが申請した科研費・基盤研究（B）「日韓共同による軍縮・平和教育プログラムの作成・実践・評価：教育学的アプローチ」（2020-2022年度）への交付が内定し、当該研究プロジェクトを始動させた。ICU大学院と長崎大学多文化社会学研究科の間の他の二分野の研究プロジェクトも含めた学術シンポジウムを2019年12月7日、8日にICUにて共催した¹¹。その内容は2020年度に書籍として刊行予定である。教育分野では、ICU大学院と長崎大学多文化社会学研究科の単位互換制度をスタートさせ、長崎大学側からはRECNA教員の担当科目を互換対象として提供した。

●外務省、長崎県・市等との協力：ナガサキ・ユース代表団7期生のニューヨーク訪問の際、メンバー9名が外務省から「ユース非核特使」を委嘱された。国際連合日本政府代表部ならびに長崎市の協力を得て、高見澤将林軍縮大使との面会を行った。高見澤氏は軍縮大使離任後の2020年3月17日、8期生メンバーの勉強会に講師として来崎の予定である。外務省が2017年に立ち上げた「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」のメンバーの一人として、朝長客員教授が参加した。10月に議論のまとめとなる議長レポートが外務省に提出された。

¹⁰ https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/youth2019_vol.7_1.pdf

¹¹ <http://www.nagasaki-u.ac.jp/ja/about/info/event/event1197.html>

長崎県、長崎市とは PCU 協議会の活動を通じたものを含め、良好な協力関係を継続している。8月9日の長崎市平和宣言の作成に、朝長客員教授、梅林客員教授、鈴木副センター長が起草委員としてかかわった。平和式典「平和への誓い」代表者選定審査委員会には、三根客員教授、鈴木副センター長が委員として参加した。平和首長会議の副会長・理事都市である長崎市とは、軍縮教育の普及に向けた連携強化に向けた協議を進めている。関連して、2020年1月23日に平和首長会議の事務局を担う広島平和文化センターの小泉崇理事長と RECNA で意見交換を行った。

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館が2020年2月10日～12日に初開催した Youth Conference in Nagasaki に広瀬副センター長、中村准教授がそれぞれ講師、コーディネーターとして貢献した。

●核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会では、朝長客員教授が委員長、鈴木副センター長が副委員長を務め、三根客員教授も実行委員会の中心メンバーとして活動している。同実行委員会の主催で2019年6月16日に開催された「ながさき平和大集会」にはナガサキ・ユース代表団のメンバーが登壇して活動発表を行った。2020年2月23日のシンポジウム「核軍縮の逆行をいかに克服するか」には朝長客員教授に加えて、吉田センター長、鈴木副センター長も登壇した。

●RECNA ラウンドテーブル・研究会等：今年度は、RECNA ラウンドテーブルを1回、RENCA 研究会を1回、そして「長崎被爆・戦後史研究会」については研究会を1回、3年間の活動を総括した公開シンポジウムを開催した。

「RECNA ラウンドテーブル」では2020年1月10日、外国人客員研究員であるグレゴリー・カラーキー博士を招き、博士の日本における研究テーマ「日米同盟と核抑止政策」について、RECNA スタッフと意見交換を行った。引き続き学生との懇談会も行った。RECNA 研究会は、2020年1月23日に朝長客員教授を講師に招いた。朝長教授もメンバーであった「核軍縮の実質的な進展のための賢人会議」の議長レポートについての解説のあと、意見交換した。

2017年度に設置した「長崎被爆・戦後史研究会」は、桐谷多恵子 RECNA 客員研究員が企画・運営を担当し、年2回程度の研究会を開催してきた。2019年度は、11月11日に東京大学文学部西村明准教授を講師に招いて「医科大的慰霊再考—生命倫理の議論を踏まえて」をテーマに第5回研究会を開催した。2020年2月15日には3年間の研究を総括する公開シンポジウム「私たちは何を継承すべきか—長崎の被爆・戦後史研究から見えてくるもの」を開催した。

(3) 資料収集・保存

●核兵器廃絶に関係する基礎情報を市民データベースとして整備し、ウェブ上で公開することは RECNA の重要な活動の一つである。2019年版の核弾頭データは例年同様、6月

1日付で最新のデータに更新した¹²。英語版ページの更新も行い、2020年3月にウェブ上で公開した。核物質データについては、各国の最新データが揃わなかったため、公表が12月になった¹³。核兵器廃絶長崎連絡協議会が発行する核弾頭・核物質データのポスターと解説しおりの作成も継続している。ポスターは日英韓の3カ国語で、しおりは日英の2カ国語で作成している。

●一般市民を対象に重要な一次資料を日英両語で分かりやすく紹介する「市民データベース」のサイトの改革を行った。解説部分を拡充するとともに重要資料へのアクセスが容易になるよう構成面や内容面で大幅な修正を行い、「核不拡散条約」「核兵器禁止条約」等の重要項目の更新を行った¹⁴。

(4) 啓発・教育

●2019年度においては、多文化社会学研究科博士前期（修士）課程の核軍縮・不拡散科目群に1名の大学院生が入学し、また2020年3月には1期生となる2名が学位を取得して修了見込みである。来年度から開講の同研究科博士後期課程の「核廃絶・平和系」を主にRECNAが担当する。同系に2名が入学予定で、指導教官は共にRECNA教員である。同研究科博士前期課程にも1名入学予定となった（付記：以上の3名は予定通りに多文化社会学研究科に入学した）。

●本年度は、「軍縮・不拡散教育研究会」と明確に銘打った活動は行わなかったが、その趣旨を念頭においた国際交流、軍縮・不拡散への若い世代への問題意識の向上に関わるさまざまな活動を行った。とりわけ、RECNAを訪問する国内外の専門家・実務者、また各国から長崎を訪問する若者らとの意見交換の場は、ナガサキ・ユース代表団のメンバーを中心とする学生たちへの意識啓発において貴重な機会となっている。

●全学モジュール「核兵器のない世界を目指して」では、モジュールⅡ（2年次生対象）として「核兵器廃絶へのアプローチ」（必修3科目）、「私たちと核兵器廃絶」（必修3科目）の2つの科目群を継続。モジュールⅠ（1年次生対象）でも昨年度同様に後期に必修3科目が開講され、受講生は約70名であった。今年度も履修希望者が履修可能な上限を超えており、抽選により受講学生の絞り込みが実施された。モジュールⅡについては、前述した2つの科目群をあわせて前期3科目、後期3科目開講された。受講生はそれぞれ約40名であった。

●PCU協議会が主催する「ナガサキ・ユース代表団」プロジェクトに、RECNAは今年も全面的に協力した。第7期生として、書類審査と英語面接を経て9名の若者が選考された（長崎大学生・院生9）。メンバーは、準備期間を経て、4月29日～5月10日にニューヨークで開かれた2020年NPT再検討会議第3回準備委員会に参加し自主ワークショップ

¹² <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nuclear1>

¹³ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/fms>

¹⁴ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/database>

や各国政府代表、国際機関・NGOの関係者、世界各地から参加する若者との交流を行うなど多彩な活動を展開した。帰国後は、活動報告会や活動レポートを発行した。また、小中高などでの出前講座の実施も、「日本非核宣言自治体協議会」（会長：長崎市長）などの協力を得て、今年も日本各地で行われた。ユース代表団の活動記録を別紙にまとめた。11月には、第8期生の一次審査及び二次審査が行われ、OBOG 枠の1名を含む8名（長崎大学生・院生7名、長崎県立大生1名、のちに長崎大生1名は要件不備により取り消し）が選考された¹⁵。

例年通り、RECNA 教員による小中高校等への出張講義は継続して実施され、長崎市内外での若い世代への継承にも貢献していると考えている。

(5) 発信・出版

●RECNA が編集を担当する長崎大学の刊行物、J-PAND (Journal for Peace and Nuclear Disarmament、2017年12月発刊) は、1年に1巻（各巻に2号）のペースの刊行計画で進めてきた。2019年度もこのペースを維持し、第2巻第1、2号を発刊（それぞれ2019年7月、12月）した。2019年度の主な実績は以下の通りである。

(1) 閲覧数

- ・2019年の閲覧数（論文ダウンロード数）は7万件近くあり、2018年の約2.6倍にまで伸びた。2019年の四半期ごとの閲覧数は右肩上がり継続している。2019年第4四半期は、前年同期比で約2.5倍の伸びとなった。
- ・掲載論文の中には、閲覧数が9000以上のものが複数出てきている。

(2) 論文の引用

引用された実績のある論文は10本を超え、J-PAND 以外の学術誌からの引用も付き始めている。

(3) 論文インデックス

各種の論文データベース (Emerging Sources Citation Index: ESCI など) への掲載に向け、手続きを進行させている。

(4) 特別伝記インタビュー「市民科学者 フランク・フォンヒッペル：核軍縮に挑み続けた半世紀」の掲載を開始した。

●RECNA 叢書5として、「核兵器のある世界とこれからの考えるガイドブック」（中村桂子著、法律文化社、174頁）の出版契約を3月に完了した（発行日は4月）。初版発行部数は2,500部、価格は1,500円（税別）である。高校生や大学学部生を対象とし、わかりやすいQ&A方式でまとめた核問題の入門書である。2013年から続いてきた全学モジュール「核兵器のない世界を目指して」の講義内容が基になっている。

●重要課題について、タイムリーに情報を発信するため、2019年度も「レクナ・ポリシーペーパー」「レクナの目」を発表した。2020年2月刊行の「レクナ・ポリシーペーパーNo.

¹⁵ https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/8th_members_j.pdf

9 教皇フランシスコ：被爆地からの発信」では、教皇の被爆地訪問、各地での演説意義に焦点をあてた¹⁶。四條長崎大学多文化社会学部客員研究員、広瀬副センター長、山口客員研究員が分析し、記者会見も行った。2019年6月30日に行われた第3回米朝首脳会談については、同7月1日に見解文を「レクナの目」として発表した¹⁷。

●定期刊行物である RECNA ニュースレター（和文・英文）は Vol.7 より、年2回（9月、3月）、デジタル版のみでの刊行に移行した。2019年度の第1号は9月に刊行し¹⁸、2020年3月に第2号を刊行した¹⁹。刊行回数を減らしたことにより、各号あたりの紙面と掲載記事は増やすこととなった。「核兵器廃絶研究センター年報 2018」も活動記録の集大成という位置付けで前年度と同様に発行した²⁰。

¹⁶ <http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39653/1/REC-PP-09.pdf>

¹⁷ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/eyes/no17>

¹⁸ http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39461/1/RECNA_8_1.pdf

¹⁹ http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39762/1/RECNA_8_2.pdf

²⁰ <http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/handle/10069/39329>

<教員活動報告>

2019 年度教員活動報告

吉田 文彦 センター長・教授 [↑](#)

I. 教育

(1) 担当科目

多文化社会学研究科（修士課程） 「核軍縮と国際政治特講」
「核軍縮と国際政治特定演習」
論文指導

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 核軍縮政策
- 核不拡散政策
- 核戦略と安全保障

(2) 著書・論文

- RECNA 編集、Taylor & Francis 社出版の英文の国際学術誌J-PAND (Journal for Peace and Nuclear Disarmament)の編集長。Volume 2 のIssue 1 (2019年 5月) &2 (2019年 12 月) を出版。Volume 2のIssue 1&2の内容は以下のURLで閲覧可能。

<https://www.tandfonline.com/toc/rpnd20/2/1?nav=tocList>

<https://www.tandfonline.com/toc/rpnd20/current?nav=tocList>

(3) 学会誌寄稿、報告書、雑誌・新聞寄稿等

- Hibiki Yamaguchi, Fumihiko Yoshida, Radomir Compel, “Can the Atomic Bombings on Japan Be Justified? A Conversation with Dr. Tsuyoshi Hasegawa”, Journal for Peace and Nuclear Disarmament, Volume2, Issue 1.

<https://www.tandfonline.com/doi/full/10.1080/25751654.2019.1625112>

- Fumihiko Yoshida, Haksoon Paik, Michael Hamel-Green, Peter Hayes “Policy Proposal: From Peace on the Korean Peninsula to a Northeast Asia Nuclear Weapon Free Zone”, RECNA, December 2019.

<http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39592/1/RECNA->

[PProp-2019-E.pdf](#)

- 吉田文彦、「はじめに」、『迷路に入った核軍縮：リスク削減に向けて』、RECNA POLICY PAPER、2019年 7月
- 吉田文彦、「はじめに」、『教皇フランシスコ：被爆地からの発信』、RECNA POLICY PAPER、2020年 2月
- 朝日新聞のウェブコラム「吉田文彦の地球360 度」に「核先制不使用宣言のすすめ INF全廃条約失った今こそ」を掲載。2019年 8月

(4) その他 (学会発表、国際会議発表等)

- 報告「プラハ演説から10年：米ロ核軍縮の行方」、「部会：軍縮がもたらした世界：軍縮学会の10年」、日本軍縮学会、2019年 4月。場所は東京。
- RECNAと世宗研究所共催の日韓共同ワークショップ「朝鮮半島の平和から北東アジア非核化へ」の総括セッション「関係各国への政策提言」で議長。場所は韓国 (ソナム)、2019年 6月
- 特別講義「朝鮮半島の非核化から北東アジア非核兵器地帯へ」、韓国・国民大学、2019年 11月。場所はソウル。

III. 社会貢献

(1) 一般向け講演、公開講座

- 核兵器廃絶市民講座 第2回「米国の核使用は日本を守るか」の講師。核兵器廃絶長崎連絡協議会主催。会場はアルカスSASEBO (佐世保市)。2019年 6月
- 国際平和シンポジウム2019「核兵器廃絶への道」にてコーディネーター。広島市、朝日新聞社など主催。会場は広島国際会議場。2019年 7月。
- 「U-40 世代の交流によるネットワーク拡大事業」で講演。日本非核宣言自治体協議会主催。会場は国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館。2019年 10月。
- 特別市民セミナー「歴史と向き合う 被爆地から学んだこと」で、スーザン・サザード氏、青来客員教授、アーサー・ビナード氏のトークセッションの司会。核兵器廃絶長崎連絡協議会主催。会場は長崎原爆資料館ホール。2019年 11月。
- 国際シンポジウム「核兵器と反人道罪のない世界へ」にて討論者。広島平和研究所、中国新聞など主催。会場は広島国際会議場。2019年 12月。

(2) メディア対応

- 「核兵器廃絶目指し 29日、アルカス SASEBO レクナセンター長が講演」 西日本新聞 2019年 6月 20日
- 「限定核使用 米軍が新指針」 長崎新聞 2019年 7月 29日

- 「核禁条約批准へ世論促そう」 長崎新聞 2019年8月5日
- 「核兵器情勢・禁止条約展望語る 「核の傘」再考するとき」 赤旗 2019年8月20日
- 「教皇来崎 その意義 爆心地から世界へ直言」 長崎新聞 2019年11月29日

(3) 地域活動

- 長崎市原爆資料館運営委員会委員
- 長崎市被爆75周年記念事業選定審査会審査委員
- 長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会委員。

(4) 連携事業

- 長崎大学とICUの包括連携協定に基づく「軍縮教育」に関する共同研究において、長崎大学側の代表。RECNAとICUが中心となって申請した科研費・基盤研究(B)「日韓共同による軍縮・平和教育プログラムの作成・実践・評価：教育学的アプローチ」(2020-2022年度)への交付が決定。

(5) 外部委員

米国ワシントンDCのカーネギー国際平和財団在外研究員(非常勤)

IV. 校務分掌

- 教育研究評議会委員
- 研究連絡調整会議委員
- 教務委員会委員
- 財務委員会委員

<教員活動報告>

2019 年度教員活動報告

鈴木 達治郎 副センター長・教授 [↑](#)

I. 教育

(1) 担当科目

全学モジュール「核と科学を平和する」(冨塚明准教授と共同)

「被ばくと社会」

多文化社会研究科(修士課程)「原子力平和利用と核不拡散特講」

「原子力平和利用と不拡散特定演習」

「核物質管理と核セキュリティ特講」

「核物質管理と核セキュリティ特定演習」

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 北東アジアの非核化と安全保障
- 核物質管理と処分
- 先端技術と核リスク

(2) 著書・論文

(著書)

- 鈴木達治郎、「東北アジア非核兵器地帯に向けて—この機会を逃すな」、原水爆禁止 2019 年世界大会・科学者集会実行委員会編、「九州・沖縄から東アジアの平和を：原水爆禁止世界大会 2019 年、世界大会・科学者集会 in 福岡—市民運動の役割と科学者の責任」、2019 年 11 月。花書院。pp. 20-38.

(査読付き論文)

- 今年度はなし。

(3) 学会誌寄稿、報告書、雑誌・新聞寄稿等

鈴木達治郎、「原子力政策の展望—『負の遺産』清算を柱に」、世界、2019 年 7 月号、岩波書店、pp.160-167.

- Tatsujiro Suzuki, “An update from Fukushima, and the Challenges that remain

there”, *Bulletin of the Atomic Scientists*, November 11, 2019.
<https://thebulletin.org/2019/11/an-update-from-fukushima-and-the-challenges-that-remain-there/>

- 鈴木達治郎、「イラン核合意の行方：最悪シナリオは防げるか」、ウェブ論座、2019年5月17日。
- 鈴木達治郎、「プルトニウム管理の国際規範作り、日本が主導を」、ウェブ論座、2019年6月6日。
- 鈴木達治郎、「参院選が放棄した『憲法改正と安全保障』の議論」、ウェブ論座、2019年7月30日。
- 鈴木達治郎、「被爆74年、広島・長崎の『平和宣言』を読む」、ウェブ論座、2019年8月18日。
- 鈴木達治郎、「迷路に入った核軍縮と2020年の日本の行方」、ウェブ論座、2020年1月7日。
- 鈴木達治郎、「信頼回復に全力で取り組み：福島第一原発の廃炉、再検討が不可欠」、日本経済研究センター、2020年2月14日。
- 鈴木達治郎、「NPT発効から50年」、毎日新聞「論点」、2020年3月18日。

(4) その他 (学会発表、国際会議発表等)

- Tatsujiro Suzuki, “Plutonium Programs in Japan and Recommendations made by Sasakawa Group”, Workshop on Practical Measures to Reduce Nuclear Risks from Fissile Material”, Vienna Center for Disarmament and Non-proliferation, Vienna, June 18, 2019.
- Tatsujiro Suzuki, “Youth as Agents of Change”, CTBTO Science and Technology Conference, Vienna, June 24-28, 2019.
- Tatsujiro Suzuki, “Facing New Tri-Polar Threats: Nuclear, Climate and Emerging Technology Risks”, International Conference on Global Risk, Security, and Ethnicity, Nagasaki, August 11, 2019.
- Tatsujiro Suzuki, “A proposal from Sasakawa Peace Foundation on International Management of Plutonium -Meeting Nuclear Security and Non-proliferation Challenges”, Multilateral Nuclear Energy Dialogue: Forming a Coalition of the Willing, Developing an Institutional Framework for Expanded Global SMR and Advanced Reactor Developments, Nevada, US, August 26-29, 2019.
- Tatsujiro Suzuki, “From Peace on the Korean Peninsula to a Northeast Asia Nuclear Free Zone (NEA-NWFZ): Don’t Miss This Opportunity”, The 5th Pan-Yellow Sea Forum, Buyeo, ROK, October 31-November 1, 2019.

III. 社会貢献

(1) 一般向け講演、公開講座

- 鈴木達治郎、「増大する核の脅威：核の傘は万全か」、「ヒバクシャ国際署名」3周年のつどい、「ヒバクシャ国際署名」を進める長崎県民の会、長崎、2019年5月26日。
- 鈴木達治郎、「NPT再検討会議第3回準備委員会に出席して」、第31回ながさき市民平和大集会、核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会、長崎、2019年6月16日。
- 鈴木達治郎、「北東アジア非核兵器地帯に向けて：この機会を逃すな」、原水爆禁止2019年世界大会・科学者集会 in 福岡、福岡、2019年7月28日。
- Tatsujiro Suzuki, “Era of New Nuclear Threats: Two Minutes to Midnight”, Hiroshima-ICAN Academy, August 3, 2019.
- 鈴木達治郎、「核のない未来は可能か」、かわさき市民アカデミー特別講座「原爆 過去・現在・未来を考える」、川崎、2019年9月19日。
- 鈴木達治郎、「3.11 原発後の原子力政策の在り方～二極対立を超えて」、完成学院大学特別演習「福島から原発を考える」、神戸、2019年9月28日。
- 鈴木達治郎、「3.11 後の原子力政策～原子力は生き残れるか」、千葉工業大学 REIWA 情勢調査研究会、東京、2020年1月29日。
- 鈴木達治郎、「原子力・エネルギー政策の改革：福島原発事故の教訓を踏まえ、二極対立を超えよ」、2019年度次世代エネルギーワークショップ～30年後のエネルギー選択を考える、東京、2020年1月31日～2月1日。
- 鈴木達治郎、「サイバー・宇宙等新技术と核リスク：新たな脅威にどう対処すべきか」、核兵器廃絶地球市民集会ナガサキ「核軍縮の逆行にいかにか克服するか」、長崎、2020年2月24日。
- 鈴木達治郎、「核のゴミ問題を考える：信頼確保目指し根本的見直しを」、愛知県弁護士会、公害対策・環境保全委員会学習会、名古屋、2020年2月20日。

(2) メディア対応

- 「福島原発廃炉、活かされない教訓と反省」、ラジオ日経「町田徹の経済レポートふかぼり」、2020年2月28日。
- 「原発再稼働問題：地元との実効ある対話と核のゴミと核燃料サイクルの見直しが大前提」、ラジオ日経「町田徹の経済レポートふかぼり」、2020年3月6日。
- 「福島原発特集、震災から9年」、TBS サンデーモーニング、2020年3月8日。
- 「川内原発とテロ対策」、MBC ニュースナオ、南日本放送、2020年3月13日。

(3) 地域活動

- 鈴木達治郎、「トランプ・米ロ・北朝鮮・NPT：2019年最新核情勢」、「伝えんば」第34

回勉強会、長崎、2019年6月10日。

- 鈴木達治郎、「映画に見る『核兵器』：私が選んだベスト10」、2019年度核兵器廃絶市民講座第5回、核兵器廃絶長崎連絡協議会、長崎、2019年12月14日。
- 長崎市「平和の誓い」代表選定委員会委員。
- 長崎市「平和宣言」起草委員会委員。
- 核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会副委員長。

(4) 連携事業

特になし

(5) 外部委員

- 軍縮学会会長
- 衆議院原子力問題調査特別委員会アドバイザーボードメンバー。
- 科学技術振興機構社会技術研究センター（RISTEX）運営評価委員会座長。
- 原子力市民委員会アドバイザー。

IV. 校務分掌

特になし

<教員活動報告>

2019 年度教員活動報告

広瀬 訓 副センター長・教授 [↑](#)

I. 教育

(1) 担当科目

- 全学モジュール 「文学・芸術と核兵器」
 - 「核軍縮の法と政治」
 - 「国際社会と平和」
- 多文化社会学部 「国際機構論」
 - 「軍縮論」
 - 「基礎演習 I・II」
 - 「専門演習 I・II」
 - 「卒業研究」
- 多文化社会研究科 (修士課程) 「核軍縮交渉の法と政治特講」
 - 「核軍縮交渉の法と政治特定演習」
- 医学部 「医学史・原爆医学と長崎」(オムニバス)

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 包括的核実験禁止条約 (CTBT) の意義と特徴
- 国際人道法上の核兵器の位置づけ
- 軍縮・平和教育における各種メディアの有効活用

(2) 著書・論文

- Satoshi Hirose 'Japan and Nuclear Weapons' Suzannah Linton, Tim McCormack and Sandesh Sivakumaran ed. *Asia-Pacific Perspectives on International Humanitarian Law*, Cambridge Univ. Press, 2019 p,440-p.455

(3) 学会誌寄稿、報告書、雑誌・新聞寄稿等

- 広瀬 訓 「NPT 再検討会議準備委員会の評価と再検討会議への展望」 RECNA ポリシーペーパー No.7 『迷路に入った核軍縮：リスク削減に向けて』 2019年7月

p.13-p.20

- 広瀬 訓 「核兵器廃絶をめぐる情勢と課題」 『月刊連合 2019年8・9合併号』 2019年8月 p.10-p.11
- 広瀬 訓 「ローマ教皇フランシスコの被爆地訪問と核軍縮」 RECNA ポリシーペーパー No.8 『教皇フランシスコ：被爆地からの発信』 2020年2月 p.1-p.7
- 広瀬 訓 「書評 瀬川高央著 『核軍縮の現代史』」 図書新聞 3440号 2020年3月21日

(4) その他(学会発表、国際会議発表等)

- Satoshi Hirose, *Denuclearization of the Korean Peninsula and Nuclear Weapon Free Zone in Northeast Asia*
Harnessing the Winds of Change in a Shifting Nuclear World Hosted by The Faculty of Law at the University of Manitoba, together with the Committee on Nuclear Weapons, Non-Proliferation and Contemporary International Law of the International Law Association (ILA) and ISLAND - the International Society of Law and Nuclear Disarmament September 29 - 30, 2019 Canadian Museum for Human Rights
Winnipeg, Manitoba, Canada

III. 社会貢献

(1) 一般向け講演、公開講座

- 広瀬 訓 「核兵器をめぐる最近の流れ」 長崎市平和推進協会平和案内人全体会
- 講師 2019年4月6日
- 広瀬 訓 Mayors for Peace Youth Forum Coordinator, 国連本部、ニューヨーク 2019年5月2日
- 広瀬 訓 「核軍縮の最前線から～NPT 準備委員会からか今見えるもの～」 2019年度第一回核兵器廃絶市民講座 講師 原爆死没者追悼平和館 2019年5月25日
- 広瀬 訓 「なぜ核兵器はなくなるのか～核兵器禁止条約と『核の傘』～」 パルシステム千葉学習会 講師 2019年6月8日
- Satoshi Hirose *Toward a World without Nuclear Weapons: Challenge of Nagasaki University* UNDP Syria Capacity Building Project, Lecture, 10 June 2019
- Satoshi Hirose *Some Untold Experiences of Nagasaki* UNDP Syria Capacity Building Project, Lecture, 11 June 2019
- 広瀬 訓 「「原爆・平和」ー長崎からの発信ー」 ユネスコ・アフリカ能力開発国際研究所「教師教育を通じたサヘル地域の過激化抑制及び平和構築支援事業」 講師

2019年7月31日

- 広瀬 訓 「なぜ核兵器はなくならないのか～核兵器禁止条約と『核の傘』～」 UAゼンセン東京都支部平和学習 講師 2019年8月4日
- 広瀬 訓 「子どもたちに平和な未来を手渡すために」 親子読書地域文庫全国連絡会50周年記念 第22回全国交流集会 平和分科会 講師 2019年10月6日
- 広瀬 訓 「映画に見る『核兵器』～私が選んだベスト10」 2019年度第一回核兵器廃絶市民講座 対談 原爆死没者追悼平和館 2019年12月14日
- 広瀬 訓 「現代の核問題」 第7期平和案内人講座 講師 2020年1月21日
- 広瀬 訓 「*Toward a World without Nuclear Weapons: Challenge of Nagasaki University*」 ユース・カンファレンス・イン・ナガサキ 講師 2020年2月11日

(2) メディア対応

- 「長崎の若者参加に意義」 長崎新聞 2019年4月3日
- 「ナガサキ・ユース7期生 存在意義を多くの人に」 朝日新聞 2019年4月5日
- 「大学生9人 長崎の思い伝えたい」 毎日新聞 2019年4月13日
- 「米の姿勢が焦点 広瀬訓氏が展望語る」 長崎新聞 2019年4月28日
- 「すべての人が「ヒバクシャ」 ナガサキ・ユース代表団が発表」 長崎新聞 2019年5月3日
- 「世界の若者 核廃絶へ道探る」 朝日新聞 2019年5月4日
- 「核廃絶へ若者が思い共有」 長崎新聞 2019年5月4日
- 「核問題 より身近に」 朝日新聞 2019年5月13日
- 「NPTは地盤沈下」 長崎新聞 2019年5月26日
- 「核保有国間にも亀裂」 西日本新聞 2019年5月26日
- 「核軍縮の行方 霧の中」 朝日新聞 2019年5月30日
- 「核廃絶の輪 広がり期待」 長崎新聞 2019年6月7日
- 「ユース代表団活動成果報告」 読売新聞 2019年6月13日
- 「ナガサキ・ユース帰国報告会 核軍縮の厳しさ実感」 毎日新聞 2019年6月13日
- 「核なき世界 決意新た」 西日本新聞 2019年6月20日
- 「日本は具体的過程提案を」 西日本新聞 2019年6月27日
- 「米国の自信・威圧感を実感」 朝日新聞 2019年7月5日
- 「核禁条約参加の議論を」 長崎新聞 2019年8月1日
- 「核ある世界に向き合う 麻痺と諦めと無知の日本」 朝日新聞 2019年10月24日
- 「核兵器」の意味映画通じ考える」 朝日新聞 2019年12月24日
- 「核兵器使用の敷居高くした」 朝日新聞 2020年2月5日
- 「核使用の敷居高く」 長崎新聞 2020年2月5日

(3) 地域活動

特になし

(4) 連携事業

- 広瀬 訓 姫路市立置塩中学校平和講座 講師 2019年4月22日
- 広瀬 訓 長崎県立鶴南特別支援学校 サイエンスカーラボ 2019年7月19日
- 広瀬 訓 「もう一度「原爆」を考える」 長崎県立長崎南高校クラスラボ 講師 2019年9月10日
- 広瀬 訓 「核はなぜなくなるのか」 東京都立町田高校平和学習 講師 2019年11月4日

(5) 外部委員

- 日本国際連合学会理事
- 学校法人活水学院理事

IV. 校務分掌

- 全学モジュール小委員会委員・ワーキンググループ委員

<教員活動報告>

2019 年度教員活動報告

中村 桂子 准教授 [↑](#)

I. 教育

- (1) 担当科目：全学モジュール「核兵器とは何か」（責任者）
全学モジュール「市民運動・NGO と核兵器廃絶」（責任者）
グローバル・モジュール「Toward a Nuclear Weapon-Free World」（責任者）
多文化社会学部「軍縮と平和」
医学部「医学史・原爆医学と長崎」

II. 研究

(1) 主要研究テーマ

- 核軍縮・不拡散をめぐる多国間協議の動向
- 核兵器廃絶に向けた市民社会の取り組み
- 核軍縮・不拡散教育

(2) 著書・論文

- 中村桂子 『核のある世界とこれからの考えるガイドブック』 RECNA 叢書 5、2020 年 3 月、法律文化社 ISBN978-4-589-04076-3
- 中村桂子 「採択から 2 年：核兵器禁止条約（TPNW）の現在とこれから」 『RECNA ポリシーペーパー No.8 迷路に入った核軍縮：リスク削減に向けて』 2019 年 7 月 pp. 21-25

(3) 学会誌寄稿、報告書、雑誌・新聞寄稿等

- 中村桂子 「世界と暮らしをつなぐこと——核兵器廃絶に向けた地方自治体の可能性」 『世界』2020 年 1 月、岩波書店 pp. 148～153
- 中村桂子 「遠くて近い核兵器廃絶への道」 『まなぶ』2020 年 3 月、労働大学出版センター、pp. 21～23
- 中村桂子 「2020 年 NPT 再検討会議に向けて～第 3 回準備委員会から見えた課題～」 『長崎の証言 2019』、長崎の証言の会、pp. 241～246

(4) その他 (学会発表、国際会議発表等)

- Keiko Nakamura “Reinvigorating the Review Process,” 18th Republic of Korea-United Nations Joint Conference on Disarmament and Non-proliferation Issues: Preparing for 2020 Nuclear Non-Proliferation Treaty Review Conference September, November 13 - 14, 2019, Seoul, ROK
- 中村桂子「北東アジア非核兵器地帯に向けて」、九州平和学会、2019年11月23-24日、長崎大学
- 中村桂子「軍縮教育の現状と課題に関する一考察：国際機関の取り組みを中心に」、国際基督教大学 (ICU)・長崎大学共同研究シンポジウム、2019年12月7日

III. 社会貢献

(1) 一般向け講演、公開講座

- 中村桂子「核兵器のない世界は実現できる？世界の現状と長崎の若者の取り組み」、外海中学校平和学習での講義、2019年5月24日
- 中村桂子「核軍縮の最前線から～NPT 準備委員会から垣間見えるもの～」、核兵器廃絶市民講座 2019年度第1回、2019年5月25日
- 中村桂子「核兵器禁止条約の採択から2年～核なき世界は近づいている？」、反核医師の会学生会部会フィールドワーク講演、2019年5月26日
- 中村桂子「長崎からグローバルな課題を発見する～被爆地ナガサキからの発信」、長崎東高校平和学習での講義、2019年6月20日
- 中村桂子「核兵器をめぐる世界の動き」、東京大学附属高校講義、2019年6月27日
- 中村桂子「核兵器のない世界は実現できる？」、桜馬場中学校平和学習での講義、2019年7月2日
- 中村桂子「核兵器をめぐる世界の動き」、ヒバクシャ国際署名をすすめる長崎県民の会2周年のつどい講演、2019年7月7日
- 中村桂子「核兵器廃絶へ：世界の動きと日本の課題」、日本民医連被ばく問題交流集会講演、2019年7月20日
- 中村桂子「核兵器のない世界は実現できる？」、日本生協連虹のひろば講演、2019年8月8日
- 中村桂子「核兵器をめぐる世界の動き」、諫早高校平和学習、2019年8月9日
- 中村桂子「北東アジア非核化のための私たちにできること」、反核医師の会総会記念講演、2019年9月15日
- 中村桂子「若者の現状から見る核兵器廃絶運動の課題と可能性」、SGI シンポジウム、2019年9月16日

- Keiko Nakamura “Toward a World Free From Nuclear Weapons - Challenge of RECNA-
“、国連フェローシップ講義、2019年9月30日
- Keiko Nakamura “Toward a World Free From Nuclear Weapons - Challenge of RECNA-
“、さくらサイエンス事業によるタイ大学生への講義、2020年1月14日
- Keiko Nakamura “Current Nuclear Issues,” Youth Conference in Nagasaki 講義、
2020年2月11日

(2) 地域活動

- 核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC) 委員
- 核兵器廃絶地球市民長崎集会実行委員会委員

(3) 連携事業

特になし

(4) 外部委員

- 日本軍縮学会理事・編集委員

<リンク集>

出版物 [↑](#)

- J-PAND <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/j-pand/>
- RECNA ニュースレター
https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/publication/newsletter_jp
- RECNA News Letter
https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/en-publication/newsletter_en
- RECNA ポリシーペーパー
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/publication/rec-pp-j>
- 政策提言書
(日本語版) <http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39591/1/RECNA-PProp-2019J.pdf>
(英語版) <http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/bitstream/10069/39592/1/RECNA-PProp-2019-E.pdf>
- RECNA 叢書 <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/publication/recnaseries>

活動報告 [↑](#)

- 2019 年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界を目指して」(全6回)
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu/lecture31>
- 日韓共同ワークショップ「朝鮮半島の平和から北東アジア非核化へ」
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/asia/irj-workshop-20190522>
- 特別市民セミナー <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu/2019-2>
- RECNA 長崎被爆・戦後史研究会
<https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/topics/23946>
- 運営委員会次第
https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/11th_Committee.pdf

教育 [↑](#)

- 大学院核軍縮・不拡散科目群
https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/GraduateSubjects_2019.pdf
- 全学モジュール「核兵器のない世界を目指して」
https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/Module_2019.pdf

ウェブサイト [↑](#)

- 市民データベース <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/database>
- 世界の核弾頭データ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nuclear1>
- 世界の核物質データ <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/fms>
- レクナの日 <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/eyes>

ナガサキ・ユース代表団（第7期生） [↑](#)

- 募集概要 https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/nagasaki-youth2018_7bogaivo
- メンバー紹介 https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/8th_members_j.pdf
- 厳選ブログ集 <https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/Youth7blogs.pdf>
- 活動報告 https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nagasaki-youth/7th_activities
- 活動紹介レポート
（前半） https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/youth2019_vol.7_1.pdf
（後半） https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/bd/files/youth2019_vol.7_2.pdf

2019年度 報道記事 [↑](#)

番号	日付	新聞	見出し
1	4月1日	読売	研究や人材育成 ICUと連携へ 長崎大、単位互換も
2	4月3日	長崎	NPT準備委傍聴 ユース代表団 長崎市役所訪れ抱負「長崎の若者参加」に意義
3	4月4日	西日本	核廃絶市民講座来月25日に開講
4	4月5日	朝日	ナガサキ・ユース7期生「存在意義を多くの人に」NPT準備委今月末から参加
5	4月13日	毎日	ユース代表団が長崎市役所訪問 大学生9人「長崎の思い伝えたい」
6	4月13日	長崎	子どもの未来を考える
7	4月14日	長崎	日韓クルーズ客戦争の歴史学ぶ
8	4月17日	長崎	「核軍縮へ義務履行を」賢人会議、国際社会に提言
9	4月19日	朝日	紛争で傷ついた子どもたち保護 独国際平和村代表が来日 あす長崎で講演
10	4月22日	長崎	未来のいのち「国際サミット2019」in長崎 「ドイツ国際平和村」代表講演 「若者の核廃絶運動に感動」
11	4月25日	西日本	NY派遣のナガサキ・ユース代表団 核廃絶へ思い語る
12	4月28日	長崎	あすからNPT準備委 米の姿勢が焦点
13	5月2日	長崎	長大レクナNPT 第3回準備委報告①
14	5月3日	長崎	ナガサキ・ユース代表団が発表
15	5月4日	朝日	世界の若者 核廃絶へ道探る 国連本部でフォーラム
16	5月4日	長崎	長大レクナNPT 第3回準備委報告②
17	5月4日	長崎	核廃絶へ若者が思い共有 国連本部でユースフォーラム
18	5月8日	長崎	長大レクナNPT 第3回準備委報告③
19	5月9日	長崎	「核なき世界遠のく」核合意一部停止 長崎の被爆者懸念
20	5月9日	西日本	共同通信・太田編集委員 NPTテーマに講演
21	5月10日	長崎	長大レクナNPT 第3回準備委報告④
22	5月11日	長崎	長大レクナNPT 第3回準備委報告⑤
23	5月12日	長崎	核廃絶機運 市民からも 長崎平和宣言 起草委が初会合
24	5月12日	長崎	NPT準備委閉幕 亀裂深刻 揺らぐ信頼
25	5月12日	西日本	「核軍縮 危機感共有を」長崎平和宣言起草委が初会合
26	5月12日	毎日	「踏み込んだメッセージを」平和宣言起草委 初会合で意見相次ぐ
27	5月13日	朝日	核問題 より身近に ナガサキ・ユース米で活動
28	5月13日	長崎	ながさき時評 朝鮮人徴用工 「終わった話」ではない
29	5月13日	長崎	長大レクナNPT 第3回準備委報告⑥
30	5月20日	読売	この人に聞く:核廃絶 長崎で専門家育成 RECNAセンター長
31	5月21日	長崎	混迷NPT準備委リポート(下)
32	5月22日	長崎	レクナ教授や共同通信編集委員 25、30日 長崎で講演会
33	5月26日	長崎	「NPTは地盤沈下」長大レクナ副センター長 準備委を振り返り懸念
34	5月26日	西日本	「核保有国間にも亀裂」NPT準備委傍聴 講座で2氏報告
35	5月27日	朝日	「核の脅威増大」指摘 ヒバクシャ国際署名3周年講演
36	5月27日	長崎	ヒバクシャ国際署名3年の集い 50万人達成へ活動推進
37	5月27日	毎日	米臨界前核実験を非難 ヒバクシャ国際署名 3年記念集会
38	5月28日	長崎	ハワイと長崎 平和教育で連携 きょう長崎大でシンポ
39	5月29日	西日本	ヒバクシャ国際署名 活動3周年 長崎で集い
40	5月30日	長崎	平和教育の在り方探る 長崎大でシンポジウム
41	5月30日	朝日	核軍縮の行方 霧の中 長崎でNPT準備委振り返る講座
42	5月30日	西日本	平和の大切さどう共有 ハワイと長崎 事例発表

2019年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
43	5月31日	朝日	「被爆証言」伝え続けた50年 「長崎証言の会」記念誌企画 寄附募る
44	6月1日	長崎	窓を開いて 核兵器廃絶を遠ざげるか
45	6月7日	長崎	核廃絶の輪 広がり期待 ナガサキ・ユース代表団 NPT準備委、活動報告
46	6月9日	毎日	平和宣言に被爆者の詩
47	6月11日	長崎	「証言の会」に秋月平和賞 半世紀で2000人分、75冊発行
48	6月12日	長崎	今日の紙面 核弾頭は1万3880発
49	6月12日	長崎	長大レクナ推計 世界の核弾頭1万3880発
50	6月12日	朝日	長崎大レクナ ポスター完成 核弾頭なお世界に1万3880発
51	6月12日	西日本	核弾頭 推計1万3880発
52	6月12日	毎日	核弾頭 世界で1万3880発
53	6月12日	読売	世界の核弾頭1万3880発
54	6月13日	長崎	先入観持たずに平和発信 長崎大院1年光岡さん深堀中で講話 被爆の実相 渡米し伝えた経験紹介
55	6月13日	毎日	ナガサキ・ユース帰国報告会 核軍縮の厳しさ実感 米NYで開催 NPT準備委参加
56	6月13日	読売	ユース代表団活動成果報告 NPT準備委派遣
57	6月15日	静岡	視標 核合意堅持に知恵絞れ
58	6月15日	福井	識者評論 安倍首相のイラン訪問 核合意堅持に知恵絞れ
59	6月15日	毎日	「対話重ね相互理解」原爆 米国での意識ギャップに葛藤 平和発信テーマに講話
60	6月15日	神戸	識者評論 緊迫イラン情勢 核合意堅持 日本は知恵絞れ
61	6月16日	佐賀	視標 安倍首相のイラン訪問 核合意堅持に知恵絞れ
62	6月17日	朝日	ながさき平和大集会 秋月平和賞「長崎の証言の会」に授与
63	6月17日	長崎	ながさき平和大集会 「証言の会」に秋月平和賞授与
64	6月18日	日本海	視標 安倍首相のイラン訪問 核合意堅持 知恵絞れ 危機回避へ外交継続を
65	6月19日	中国	識者評論 安倍首相のイラン訪問 核合意堅持へ知恵を絞れ
66	6月19日	高知	視標 安倍首相イラン訪問 核合意堅持へ知恵絞れ
67	6月20日	西日本	「核なき世界」決意新た NPT傍聴、各国と交流 ナガサキ・ユースが報告会
68	6月20日	西日本	核兵器廃絶目指し 29日、アルカスSASEBO レクナセンター長が講演
69	6月22日	長崎	安倍首相のイラン訪問 核合意堅持に知恵絞れ
70	6月23日	西日本	首相のイラン訪問 核合意堅持へ知恵絞れ
71	6月24日	長崎	ながさき時評 対イラン問題 自衛隊出動の事態回避を
72	6月24日	静岡	米 核弾頭数開示拒否
73	6月25日	愛媛	米 核弾頭数の開示拒否 前政権の方針を転換
74	6月27日	長崎	核禁条約採択2年で記念講演会 長崎で来月7日 バチカンの対応 解説も
75	6月27日	西日本	長崎大核兵器廃絶研究センター・広瀬副センター長に聞く 混迷のNPT、打開策見えず 『日本は具体的過程 提案を』
76	7月1日	朝日	米朝首脳会談 非核化・拉致 進展に期待 「首相も訪朝を」注文も
77	7月4日	西日本	核兵器廃絶訴え講演会 7日、長崎市の被災協—禁止条約採択2周年を記念
78	7月7日	長崎	平和宣言起草委 最終会合 「核禁」批准 政府へ要求
79	7月7日	毎日	参院選2019 核廃絶「国政で議論を」
80	7月8日	朝日	核禁条約「国内で深い議論必要」採択2年 講演で長大・中村准教授
81	7月10日	長崎	あの人の人 長崎の平和運動を研究する中国人 何雲艶さん
82	7月11日	西日本	爆心地行ったり来たり 原爆資料館13年の日々 土山秀夫さん上 記憶力が衰えぬ「先生」
83	7月14日	新潟日報	廃炉ビジネス 光と影 岐路に立つ原発政策
84	7月18日	長崎	ICUの杉本さん、五井野さん 原爆 日本のこととして/核抑止力の考え方学ぶ

2019年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
85	7月18日	西日本	爆心地行ったり来たり 原爆資料館13年の日々 土山秀夫さん中 核廃絶 理性と感性で
86	7月23日	西日本	「平和と核軍縮」最新号 法王の言動分析も
87	7月24日	長崎	法王の反核姿勢 紹介 長崎大学核兵器廃絶研究センター
88	7月25日	西日本	爆心地行ったり来たり 原爆資料館13年の日々 土山秀夫さん下 危機を前に 真実伝える
89	7月26日	山形	核兵器の存在 自ら考えよう 蔵王一中で講演会
90	7月27日	長崎	NEWS論点 対論インタビュー 日米安保見直し発言
91	7月29日	長崎	長崎時評 原爆・戦争と遺品
92	7月29日	長崎	限定核使用 米軍が新指針
93	7月31日	朝日	変わり目のつづき
94	8月1日	長崎	長崎大レクナ・政策研究報告 「核禁条約参加の議論を」
95	8月3日	長崎	INF廃棄条約執行
96	8月3日	長崎	ローマ法王の長崎訪問に注目
97	8月3日	朝日	米口のINF全廃条約失効
98	8月4日	長崎	核兵器禁止条約の時代 核軍縮巡る論文を収録
99	8月4日	毎日	関心高め核軍縮へ 長崎の大学生「脅威」世界に訴え
100	8月4日	日経	蜜柑の木で見つけたもの
101	8月5日	長崎	核禁条約批准へ世論促そう
102	8月9日	長崎	「衝撃的」核弾頭数を音で体感 ナガサキ虹のひろば
103	8月9日	長崎	被爆地の叫び 長崎の証言50年〈4〉 迫る刻限 変わらぬ使命
104	8月10日	長崎	原爆投下から74年 「核の復権」許すまじ
105	8月16日	朝日(佐賀版)	核兵器めぐり「世界に二つの流れ」長崎大准教授、佐賀で講演
106	8月16日	佐賀	核廃絶訴え 不戦の集い 長崎大准教授が講演
107	8月20日	赤旗	核兵器情勢・禁止条約展望語る 「核の傘」再考するとき
108	8月23日	朝日	第2次大戦式典 長大生ら出席へ
109	8月23日	長崎	ポーランド・第二次大戦80年式典 長崎の3人市長に出發報告
110	8月25日	朝日	変わり目のつづき 「非核非戦の碑」を前に
111	8月28日	朝日	県被爆者手帳友の会 新会長に朝長さん 「医療・福祉の充実めざす」
112	8月28日	長崎	若者が語る核兵器廃絶と平和
113	8月28日	長崎	県被爆者手帳友の会 新会長に朝長万左男氏
114	8月	朝日グローブ	日本の原発から核爆弾の材料はできる？
115	9月2日	長崎	ながさき時評 日韓軍事協定破棄 地域秩序を考え直す好機
116	9月3日	長崎	滑石九条の会主催「考えるつどい」で 若い世代が平和活動語る
117	9月7日	長崎	日韓と北朝鮮核問題 足元の脅威 共に直視を
118	9月19日	長崎	長大レクナ提言 日朝韓と米で友好条約を 北東アジア非核地帯創設向け
119	9月19日	朝日	長崎大RECNA 核なき北東アジアへ提言 法的拘束力強め不可逆性高める
120	9月19日	西日本	長崎大核兵器廃絶研究センター 非核化政策を提言
121	9月19日	毎日	長大レクナ 韓国の研究所と提言書 北東アジアを非核地帯に
122	10月4日	長崎	核兵器廃絶長崎連絡協議会「ユース代表团」8期生を募集
123	10月14日	長崎	ながさき時評 軍事研究問題 科学者としての矜持示せ
124	10月16日	朝日	日本主導 「核のごみ」対策 14カ国が初会議
125	10月24日	朝日	「核ある世界」に向き合う 麻痺と諦めと無知の日本
126	10月25日	長崎	政府人道上の「懸念」削除 国連への核廃絶決議案

2019年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
127	10月26日	朝日	長崎の証言の会 12人収録の「証言」 「核兵器、非人道的でむごい 認識を」
128	10月26日	長崎	長崎の証言の会 「証言2019 ナガサキ・ヒロシマの声」発行
129	10月27日	朝日	核のボタン握る「奇妙な人」
130	11月2日	長崎	核心評論 日本の核廃絶決議案 モラルの高みに立てぬ被爆国
131	11月4日	朝日	英語の「被爆者の声」翻訳書に
132	11月5日	朝日	核軍縮へ合意至らず 「賢人会議」が報告書
133	11月12日	長崎	原爆テーマ「ナガサキ」の著者 サザードさん講演
134	11月12日	朝日	米国の作家・サザードさん 長崎で講演
135	11月14日	長崎	25日、長崎大で集会 大学生ら有志が企画 若者の社会参画考えよう
136	11月14日	朝日	長崎大・四條知恵研究員 38年前、被爆信徒の語り変えた
137	11月19日	長崎	法王来崎を待つ(上) 朝長万左男さん 核保有国を動かして
138	11月25日	西日本	長崎爆心地から発信 教皇「核は守ってくれない」
139	11月26日	長崎	ながさき時評 「長崎の証言」運動50年 「普通の被爆者」の声 記録
140	11月27日	長崎	教皇メッセージに感銘 長崎大で学生ら語り合う
141	11月29日	長崎	教皇来崎 その意義 爆心地から世界へ直言
142	11月30日	毎日	原子力利用に先べん
143	12月2日	朝日	ローマ教皇の爆心地訪問 「人間が人間に問う」祈り
144	12月5日	長崎	国内50大学で原爆展を 市長意向 継承へ21年度から
145	12月5日	長崎	ナガサキ・ユース代表団第8期生 「思いを行動に移したい」
146	12月7日	長崎	教皇メッセージに応えたい
147	12月21日	長崎	長崎連絡会結成へ
148	12月23日	長崎	トランプ氏、核戦力強化か
149	12月24日	朝日	RECNA副センター長ら対談 「核兵器」の意味 映画通じ考える
150	12月30日	長崎	北東アジア平和へ 教材・教育課程を開発
151	1月8日	長崎	米専門家11日 長崎で講演 戦術核のアジア配備は
152	1月10日	長崎	決裂ならNPT形骸化 レクナの中村准教授が講演
153	1月12日	長崎	小型核のアジア【配備検討 「的外れ」と米専門家
154	1月13日	長崎	緊迫する中東情勢 核問題全般にも影響
155	1月22日	長崎	グレゴリー・カラーキー氏 米戦術核兵器のアジア配備検討 対中関係の悪化懸念
156	2月4日	長崎	「被爆・戦後史研究」で総括シンポ 15日に長大レクナ
157	2月4日	長崎	軍縮大使、長崎市長を訪問 レクナ教育事業に「期待」
158	2月4日	中国	核問題 映画で身近に感じて 長崎大教授 講演や授業
159	2月5日	朝日	教皇来日 RECNA分析 「核兵器使用の敷居高くした」
160	2月5日	長崎	長大レクナ 教皇被爆地訪問で研究報告 「核使用の敷居高く」
161	2月5日	長崎	核兵器廃絶市民講座 黒澤氏 長崎で講演 核軍縮への歩み「非常に悪い状況」
162	2月8日	長崎	朝長氏が講演 核軍縮会議実現に期待
163	2月16日	長崎	長大レクナ 「継承」テーマにシンポ 資料保存、次世代育成が必要
164	2月18日	長崎	核軍縮の逆行をいかに克服するか NPT再検討会議に向け議論
165	2月20日	長崎	核問題を気軽に語ろう
166	2月20日	長崎	核問題へ関心 映画きっかけも 授業や講演で作品照会
167	2月24日	朝日	終末時計 短くなる時間
168	2月24日	長崎	ICAN川崎氏、長崎で講演 核禁条約の年内発行「可能」

2019年度 報道記事

番号	日付	新聞	見出し
169	2月25日	長崎	核問題、平和 気軽な感覚で キャラバン隊員ら パネル討議通じ考える
170	3月2日	長崎	核廃絶へ 何を継承すべきか 「長崎被爆・戦後史研究会」総括シンポジウム
171	3月9日	長崎	ドゥワソク連軍縮研究所長 長崎市長と意見交換
172	3月18日	毎日	論点 【小型なら】危険な発想
173	3月20日	長崎	長大レクナHPIに掲載 北朝鮮非核化へ多国間協議を 米露中韓の専門家が分析・提言
174	3月30日	長崎	県内の研究者グループ 被爆者運動の「歩み」後世へ

<あしがき> [↑](#)

2019年度は米国トランプ政権の強硬姿勢と突出ぶりが目立ち、核軍縮にとっては逆風が目立つ一年だった。しかし、2020年は広島・長崎の被爆から75年の節目の年であり、また、NPTの発効から50年、無期限延長決定から25年の再検討会議の年でもあることから、悲観論の反面、一定の期待感があったことも否定できない。ところがそこに文字通り降ってわいたように発生したのが新型コロナウイルスによる世界的なパンデミックの発生であった。NPT延長会議はとりあえず2021年に開催が延期されたものの、開催に関し確たる見通しが立っているわけではない。また、被爆75年関連の多くの行事も延期、中止、縮小あるいは変更を余儀なくされている。

新型コロナウイルスの流行は国際、国内を問わずに多くの混乱をもたらしたが、同時に様々な教訓も与えてくれている。一つは人類全体が直接的な脅威に直面するという経験を共有したことである。新型コロナウイルスと核兵器を同列視すべきかどうかという問題はさておき、「今、私たちの目の前に、人類全体にとっての脅威が存在しており、自分もその当事者である」という意識がグローバルに確認されたことの意味は大きい。「新型コロナウイルス」を「核兵器」に置き換えた時に、それは人々にどのような影響を与えるだろうか。見方によっては、瞬時にして人類を絶滅させうる力を持っている核兵器の方がはるかに深刻な脅威だとも言えるだろう。新型コロナウイルスの蔓延によって共有された危機意識を、核兵器の蔓延に置き換えて、より強い危機感を抱けるような想像力を持つ人々が増えるために、RECNAがどのような貢献ができるのか、被爆75年を迎えて改めて問い直されていると言える。

(広瀬 訓)

長崎大学核兵器廃絶研究センター年報2019

2020年9月30日発行

発行所 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

電話: 095-819-2164 FAX: 095-819-2165

E-Mail : recna_staff@ml.nagasaki-u.ac.jp

URL : <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/>